

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 29 日現在

機関番号：84426

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00982

研究課題名（和文）植民地統治と朝鮮衡平運動 治安維持法と「衡平青年前衛同盟事件」

研究課題名（英文）Japanese Colonial Rule and Korean Hyeong-pyeong Movement : The Peace Preservation Law and False Charge for A Fabricated Communists Organization "Hyeong-pyeong Youth Front League" Case

研究代表者

竹森 健二郎 (Takemori, Kenjiro)

一般社団法人部落解放・人権研究所（調査・研究部）・企画・研究部・非常勤研究員

研究者番号：70747732

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：朝鮮衡平運動とは、植民地統治下の朝鮮において、被差別民「白丁」（ペクチョン）出身者にたいする差別の撤廃をめざして設立された朝鮮衡平社が掲げた反差別運動である。

本研究では、衡平社にたいする治安維持法弾圧事件である「衡平前衛同盟事件」関係調書の検討を中心に、関連史料の収集や、韓国への現地踏査をすすめた。同事件では容疑者のほとんどが無罪になるが、関係者の生い立ちや活動に入る経緯などの供述は概ね信用できると判断した。その主要部分を翻刻するとともに、衡平社の刊行物や、朝鮮や日本での雑誌新聞記事なども精選して収録し、それらに解題を付した『朝鮮衡平運動史料集・続』の編纂を進め、2021年に出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日韓をまたがる共同研究を進め、科研費研究「日本統治下朝鮮における衡平運動に関する歴史的研究」（15K02885）に引き続き、史料集続篇を編纂したことは、これまで明らかなことが多かった朝鮮衡平運動について、今後の研究の基盤となる。史料発掘とともに、日韓の国際研究会や韓国での現地踏査を通じて、朝鮮衡平社創立百年となる2023年を前に、韓国においても研究気運の醸成にもつながった。

研究報告の多くが論文化されて部落解放・人権研究所の研究紀要『部落解放研究』等に掲載され、同研究所の月刊誌『ヒューマンライツ』や解放出版社の雑誌『部落解放』など一般向け媒体にも踏査記録などを積極的に発信した。

研究成果の概要（英文）：The Hyeongpyeong Movement was an anti-discrimination movement advocated by The Joseon Hyeongpyeong-sa, which was established in Korea under colonial rule with the aim of eliminating discrimination against the people called "Baekjeong". We focused on the archives of the interrogation reports on the "Hyeongpyeong Youth Front League Incident", which was a case of oppression using the Peace Preservation Law against Hyeongpyeong-sa, collected other historical materials, and had several field trips to Korea. Although most of the suspects were innocent in this case, but we consider that their each description around their backgrounds, their reasons, and situations of joining Hyeongpyeong-sa are almost available. We added the publications by Hyeongpyeong-sa, magazine and newspaper articles in Korea and Japan, put the bibliographical introductions, and published "The Historical Materials on the Korean Hyeongpyeong Movement, The Sequel" in 2021.

研究分野：日本史、部落問題研究

キーワード：朝鮮衡平社 白丁 朝鮮総督府 戸籍 全国水平社 食肉業 皮革業 国際研究者交流

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究(植民地統治と朝鮮衡平運動 治安維持法と「衡平青年前衛同盟事件」)は、科研費研究「日本統治下朝鮮における衡平運動に関する歴史的研究」(2015年度~2017年度、基盤研究C、研究代表者 石橋武)(以下、前期科研)を継続・深化することをめざして、一般社団法人部落解放・人権研究所の共同研究「朝鮮衡平運動史研究会」において組織された、日韓の国際共同研究である。

朝鮮衡平運動とは、植民地統治下の朝鮮において、「白丁」(白丁、ペクチョン)出身者にたいする差別の撤廃を掲げて1923年に創設された朝鮮衡平社が提起した運動である。白丁とは、前近代朝鮮社会において差別をうけてきた身分集団であり、屠畜や柳器製造に従事してきた。1894年の甲午改革で賤民身分が廃止されたといわれているものの「白丁」と呼ばれてきた人びとへの差別は解消されなかった。三一朝鮮独立運動を経験した朝鮮民族運動の関係者において、これは民族がのりこえるべき社会問題として意識されるようになったようである。このため、朝鮮衡平社の創立やその活動には、「白丁」出身ではない立場からの参加者が少なくなく、なおかつ大きな役割を果たしている。ちなみに、朝鮮衡平社は日中戦争開始後の一時期に「大同社」と改称するが、本研究では、衡平社発起後に展開された、「白丁」差別を解消し、「白丁」出身者の社会経済的基盤を確立しようとする動きを総称して、朝鮮衡平運動と位置づけることとした。(前期科研の成果報告書を参照。)

前期科研において、分担者(ただし、前記「朝鮮衡平運動史研究会」共同代表)の水野直樹が韓国において2か所で所蔵されていた「衡平青年前衛同盟事件」調書の所在をつきとめたことで、本研究はそれらの翻刻と分析にとりくむこととした。植民地における治安維持法体制の実態解明の観点からも、被告の数が14人に及ぶ事件に関わる警察の作成した供述調書から検察訊問調書、予審訊問調書、公判調書までがほぼ揃った形で追跡できる貴重な史料であり、かつまた韓国の研究者には解読の難しい日本語の筆記史料を翻刻するだけでも、日朝関係史研究に裨益するものは大きいと考えられた。

2. 研究の目的

前期科研において新たに発見された「衡平青年前衛同盟事件」関連資料の検討を軸に、さらに関連史料の発掘に努めることで、植民地朝鮮における「白丁」出身者の活動と日本による植民地統治の特質を明らかにすることをめざした。

「衡平青年前衛同盟事件」とは、1933年に光州警察署が検挙した治安維持法事件である。光州警察署は衡平社内に1929年4月20日に共産主義をめざす「衡平青年前衛同盟」なる団体が結成されたという容疑で、1933年1月から7か月間にわたって100名を超す衡平社員を検挙した。そのうち14名が起訴されたが、有罪判決は1名のみで、それも治安維持法違反ではないという結果になった。公判は4年の長きに及び、結果として朝鮮衡平社の組織が大きな打撃を受けた弾圧事件であった。

当該史料は、韓国で高淑和の論文「衡平青年前衛同盟事件」(『國史館論叢』64、國史編纂委員会、1995年)でその一部が利用されているものの、研究者の間でもその存在はほとんど知られておらず、利用もされてこなかった史料群である。前述のように、水野直樹が、これが韓国の国家記録院と國史編纂委員会の2機関で所蔵されていることを確認したところ、その内容から、これがもともと光州警察署で作成された被疑者訊問調書を中心に、光州地方法院で簿冊に綴じられたものであり、さらに大邱覆審法院の公判調書の一部を加えたと考えられる。残念ながら、判決文は残されておらず、また欠落も多いが、治安維持法事件の事例研究としても貴重な史料である。

植民地下における治安維持法運用の研究はそれほど多くはない。植民地の治安機構は日本のそれとは別の独自の機構として存在しており、その具体的な運用を明らかにすることも期待された。

3. 研究の方法

本研究は史料研究を柱としつつ、韓国踏査をおこなうことで現地の事情や地方史研究の成果を吸収するとともに、韓国の研究者との交流に努め、さらに史料を共有することで共同研究の進展を図った。

(1) 史料収集と翻刻

初年度に、『朝鮮衡平運動史料集』の続篇を編纂することを方針化し、これをめざして史料翻刻や収集を分担した。また、逐次進捗状況を確認し、停顿しているところを再配分するなど、全体の進行を加速させた。

衡平社じしんの刊行物や、衡平運動を取りあげた朝鮮語史料については、前期科研での収集成果からの上積みをはかるとともに、韓国の研究協力者の助力を仰ぎつつ、それらの翻訳を進めた。新聞記事については、かつて池川英勝が朝鮮語新聞『東亜日報』から関係記事を網羅的に拾って『朝鮮学報』に紹介したが、日本統治下の朝鮮で発行されていた朝鮮語新聞や日本語新聞各紙の発掘がその後進んで今日では利用可能になっており、京都大学人文科学研究所で購入されたマイクロフィルムや、韓国の有力な新聞各社がオープンアクセス化を進めてオンラインで無償公開されている創刊以来紙面データベースなどを活用して記事を拾い、そのうち重要な記事を翻訳収録することとした。

在日朝鮮人メディアについても調査をひろげ、関係記事を収集した。

また、対象を衡平運動に限らず、ひろく「白丁」にかかわる調査、文学や映画などの芸術作品、代表的な生業とされる食肉業や皮革業についても、調査をすすめることとした。

共同研究の関心のひとつに、当初から、全国水平社との交流という課題があった。このため、水平運動関係史料についても、あらためて精査し、朝鮮衡平社関係の記事を整理した。あわせて、部落史関係の既刊翻刻史料集に収録されている朝鮮衡平運動関係の史料についても原典や複写の確認を進めた。

(2) 国際研究会と韓国現地踏査

前期科研から通算して第5回の日韓研究会を2018年11月17日(土)、18日(日)の両日で、部落解放・人権研究所が入っている大阪市内HRCビルにて開催した。同じく、第6回の日韓研究会を2019年8月3日(土)、4日(日)の両日で開催した。また、研究成果として後述する『朝鮮衡平運動史料集・続』の刊行記念講演会を、部落解放・人権研究所の公開講座として2021年3月6日(土)にオンライン開催し、韓国からも史料集の共同監修者である金仲燮が講師陣の一員として参加した。

2018年6月27日から7月2日まで、大韓民国全羅南道、光州広域市及び慶尚南道(晋州など)で踏査をおこなった。さらに、2019年5月29日から6月3日まで、大韓民国慶尚北道(醴泉、安東など)及び大邱広域市で踏査をおこなった。2020年度はCOVID-19(新型コロナウイルス感染症)パンデミックのため、計画を延期し、結局中止のやむなきにいたった。

4. 研究成果

(1) 史料集

本研究の成果として特筆されるのは、金仲燮、水野直樹監修、部落解放・人権研究所朝鮮衡平運動史研究会編『朝鮮衡平運動史料集・続』(解放出版社、2021年、766頁)の出版である。両監修者のほか、正篇に引き続いて献身的に編集作業を担った渡辺俊雄、研究会の一員として翻刻や翻訳、解題執筆、あるいは事務局業務を担った、高正子、徐知延、徐知伶、趙美恩、吉田文茂、竹森健二郎、八箇亮仁、割石忠典、駒井忠之、矢野治世美、川瀬俊治、廣岡浄進、朝治武、友永健三、松本信司、以上の各氏の貢献を記すものである。(敬称略)

史料集は二部構成とした。第1部には、衡平運動の基本史料や、衡平社の機関誌『正進』創刊号の主な記事を日本で初めて紹介した。また、朝鮮で発行された新聞の記事270点余や、朝鮮語雑誌に掲載された文献を厳選して翻訳収録した。さらに、当時の「白丁」の生活や差別を記録した調査報告書、文学作品の翻訳、日本で衡平運動を取りあげた論考や、日本の水平運動との交流をたどることのできる史料も収めた。

第2部には、「衡平青年前衛同盟」事件関係調書などを収録した。逮捕された活動家の供述調書や証拠資料、あるいは公判での関係者の陳述書などには、かれら「白丁」出身青年たちの生い立ちや家庭環境、生業や衡平運動に身を投じた経緯、運動の具体的内容などが詳細に語られており、記述は非常に生々しい。一連の簿冊では光州地方法院の判決文が失われているが、大邱覆審法院の判決文を収録した。

(2) 個別研究

研究会報告は、逐次、ゲスト報告も含めて、本研究の拠点である部落解放・人権研究所の紀要誌『部落解放研究』に、関係者の査読を経たものが掲載された。また、踏査の記録は、ひろく一般に関心を惹起させるため、研究所の情報誌である月刊『ヒューマンライツ』や、解放出版社の雑誌『部落解放』などに掲載の場をもとめた。

水野直樹は、本研究を牽引するとともに、自身の多年の近代朝鮮戸籍研究の蓄積に立脚して、朝鮮時代の「屠漢」戸籍を発掘するとともに、大韓帝国民籍やそれを引き継いだ朝鮮戸籍においても「白丁」の出自を意味する記述が確認できる事例を報告し、植民地権力と差別との関係をめぐる議論に一石を投じるとともに、日本の部落問題との比較研究の可能性を示した。また、衡平社が消滅した後の、戦時下から解放直後にかけての関係者の動向を明らかにし、食肉皮革産業の業界団体を拠点に衡平運動の精神を継承しようとする試みがあったことを明らかにした。さらに映画研究をすすめており、植民地期に制作され、「白丁」出身青年が主人公として登場する映画「閻光=神の粧」(1925年、朝鮮キネマ製作)について論じた。

また、朝治武は、韓国歴史ドラマにおける「白丁」表象への関心から、並行して一書『韓国歴史ドラマの再発見-可視化される身分と白丁』(解放出版社、2019年)をものした。日本の娯楽

ドラマにおいて部落問題や前近代の被差別民がかき消されて、表象から排除されている現状への対比的な問題提起ともなるであろう。

(3) 今後について

なお、史料集には紙幅の関係上収録を断念したが、高麗大学図書館で、衡平運動にかかわる朝鮮語の新聞記事や雑誌、及び高麗革命党事件調書、呉東振事件調書(高麗革命党関係部分)、保寧衡平社騒擾事件調書(金應時ほか)等のあらたな史料が見つかった。とりわけ、保寧衡平社騒擾事件調書は、新聞報道されなかったため、まったく知られていない事件である。事件の内容や裁判過程などもよくわからない面があるが保寧の衡平社員に関する文書から生活の様子が垣間見える。これらの未収録の貴重な史料をどのように翻刻公開して活用していくことができるのか、引き続きさまざまな可能性を探りたい。

2023年には朝鮮衡平社の発足から百年を迎える。韓国で記念行事が準備されている。また、日本でも関連した学術集会の企画検討が始まっている。本研究がこうした機運を醸成したということもできるだろう。また、朝鮮衡平運動史研究会では、この節目をめざして一般向け図書を作る構想も議論されていることを付言したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計29件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 渡辺俊雄	4. 巻 213
2. 論文標題 衡平社則第四条をめぐる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 部落解放研究	6. 最初と最後の頁 101-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 水野直樹	4. 巻 214
2. 論文標題 戦時期・解放後朝鮮における皮革統制と衡平運動関係者の活動	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 部落解放研究	6. 最初と最後の頁 97-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 渡辺俊雄	4. 巻 214
2. 論文標題 衡平運動史研究の展望・続：朝鮮衡平運動史料・続』刊行にあたって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 部落解放研究	6. 最初と最後の頁 131-149
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 朝鮮衡平運動史研究会	4. 巻 214
2. 論文標題 朝鮮衡平運動史研究日本語文献一覧について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 部落解放研究	6. 最初と最後の頁 150-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 駒井忠之	4. 巻 23
2. 論文標題 全国水平社創立宣言における「熱」と「光」の考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 水平社博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八箇亮仁	4. 巻 797
2. 論文標題 水平社と衡平社: 連帯への試練	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 12-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野直樹	4. 巻 -
2. 論文標題 平等と連帯 三一独立運動と朝日被差別民連帯運動	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東北亜歴史財団主催「三一運動、臨時政府樹立100周年記念国際学術会議」発表論文集	6. 最初と最後の頁 125 - 156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺俊雄	4. 巻 8
2. 論文標題 本の紹介 / 朝治武『水平社論争の群像』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 和歌山人権研究所紀要	6. 最初と最後の頁 53-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友永健三	4. 巻 378
2. 論文標題 報告 / 韓国慶尚北道での衡平社をはじめとする社会運動の足跡を訪ねて - 第三次韓国踏査報告 (上)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヒューマンライツ	6. 最初と最後の頁 48 - 51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友永健三	4. 巻 379
2. 論文標題 報告 / 韓国慶尚北道での衡平社をはじめとする社会運動の足跡を訪ねて - 第三次韓国踏査報告 (中)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヒューマンライツ	6. 最初と最後の頁 58 - 61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友永健三	4. 巻 380
2. 論文標題 報告 / 韓国慶尚北道での衡平社をはじめとする社会運動の足跡を訪ねて - 第三次韓国踏査報告 (下)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヒューマンライツ	6. 最初と最後の頁 58 - 61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 割石忠典	4. 巻 211
2. 論文標題 朝鮮衡平運動史研究発展のために (3) - 慶尚北道及び大邱広域市での踏査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 部落解放研究	6. 最初と最後の頁 189 - 223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野直樹	4. 巻 211
2. 論文標題 朝鮮民族運動における「平等原則」と衡平運動	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 部落解放研究	6. 最初と最後の頁 88 - 107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野直樹	4. 巻 782
2. 論文標題 本の紹介 / 「韓国歴史ドラマを観るもう一つの視点 - 朝治武『韓国歴史ドラマの再発見』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 70 - 72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 駒井忠之	4. 巻 212
2. 論文標題 衡平社運動の射程 - 植民地支配からの解放をめぐる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 部落解放研究	6. 最初と最後の頁 2 - 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八箇亮仁	4. 巻 212
2. 論文標題 日朝被差別民の提携模索とその意義と限界 - 「階級闘争論」の陥穽	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 部落解放研究	6. 最初と最後の頁 23 - 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 成周絃	4. 巻 212
2. 論文標題 衡平社と天道教	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 部落解放研究	6. 最初と最後の頁 56 - 78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金日洙	4. 巻 212
2. 論文標題 慶尚北道地域の衡平運動と社会運動団体の対応	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 部落解放研究	6. 最初と最後の頁 79 - 110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朝治武	4. 巻 38
2. 論文標題 衡平社が登場する『野人時代』の歴史世界	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 なら人権部落解放研究所紀要	6. 最初と最後の頁 51-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野直樹	4. 巻 83
2. 論文標題 「闇光 = 神の粧」(1925年、朝鮮キネマ製作)の映画史的意味	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 映画研究(韓国映画学会)	6. 最初と最後の頁 5-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友永健三	4. 巻 141
2. 論文標題 「旧「白丁(ベクチョン)」居住地と衡平(ヒョンピョン)運動ゆかりの地・訪問記 「アジア・太平洋の窓」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際人権ひろば	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川瀬俊治	4. 巻 368
2. 論文標題 食肉の流通近代化で旧白丁差別が克服されたのか - 朝鮮衡平運動史研究会の第二回韓国踏査から(上)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ヒューマンライツ	6. 最初と最後の頁 40 - 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川瀬俊治	4. 巻 369
2. 論文標題 差別用語「白丁」がどんな時に顕在化するのか - 朝鮮衡平運動史研究会の第二回韓国踏査から(下)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ヒューマンライツ	6. 最初と最後の頁 58-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 割石忠典	4. 巻 3
2. 論文標題 朝鮮衡平社大会に参加した原口幸一 - 植民地期朝鮮と広島県北部の部落差別撤廃闘争 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 芸備近現代史研究	6. 最初と最後の頁 34 - 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 チェ・ボミン(翻訳 高正子)	4. 巻 210
2. 論文標題 1925年の醜泉事件と社会主義運動勢力の認識	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 部落解放研究	6. 最初と最後の頁 74 - 92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田文茂	4. 巻 210
2. 論文標題 衡平運動家の人物像 - 「衡平青年前衛同盟事件」史料から見えるもの	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 部落解放研究	6. 最初と最後の頁 93 - 129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野直樹	4. 巻 21
2. 論文標題 水平社と朝鮮衡平運動 - 交流・連帯の歴史とその問題点 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 水平社博物館紀要	6. 最初と最後の頁 67 - 75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 割石忠典	4. 巻 209
2. 論文標題 続・朝鮮衡平運動史研究発展のために : 全羅南道及び慶尚南道での踏査	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 部落解放研究	6. 最初と最後の頁 121 - 164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朝治武	4. 巻 209
2. 論文標題 韓国ドラマに描かれた「白丁」と衡平社	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 部落解放研究	6. 最初と最後の頁 165 - 199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 水野直樹
2. 発表標題 平等と連帯 三一独立運動と朝日被差別民連帯運動
3. 学会等名 東北亜歴史財団主催「三一運動、臨時政府樹立100周年記念国際学術会議」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 廣岡浄進
2. 発表標題 醴泉事件と朝鮮衡平社
3. 学会等名 朝鮮史研究会関西西部会12月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 水野直樹
2. 発表標題 朝鮮近代史における被差別民 衡平運動関係史料から見えてくるもの
3. 学会等名 朝鮮史研究会第57回大会(招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 金 仲燮・水野 直樹（監修）、部落解放・人権研究所 朝鮮衡平運動史研究会（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 解放出版社	5. 総ページ数 766
3. 書名 朝鮮衡平運動史料集・続	

1. 著者名 朝治 武	4. 発行年 2019年
2. 出版社 解放出版社	5. 総ページ数 356
3. 書名 韓国歴史ドラマの再発見：可視化される身分と白丁	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	水野 直樹 (MIZUNO Naoki) (40181903)	同志社大学・人文科学研究所・嘱託研究員 (34310)	
研究分担者	吉田 文茂 (YOSHIDA Fumiyoshi) (50747730)	一般社団法人部落解放・人権研究所（調査・研究部）・企画・研究部・非常勤研究員 (84426)	
研究分担者	石橋 武（朝治武） (ISHIBASHI ASAJI Takeshi) (80747733)	一般社団法人部落解放・人権研究所（調査・研究部）・企画・研究部・非常勤研究員 (84426)	大阪人権博物館

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	廣岡 浄進 (HIROOKA Kiyonobu) (30548350)	大阪市立大学・人権問題研究センター・准教授 (24402)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	金 仲燮 (KIM Joong Seop)	慶尚大学校・名誉教授	
研究協力者	高 正子 (KO Jeong Ja) (80441418)	神戸大学・非常勤講師 (14501)	
研究協力者	趙 美恩 (JO Mee Eun)	成均館大学校・非常勤講師	
研究協力者	徐 知延 (SEO Ji Yeon)	博士（比較文化学）	
研究協力者	徐 知伶 (SEO Ji Young)	博士（比較文化学）	
研究協力者	渡辺 俊雄 (WATANABE Toshio)	全国部落史研究会・運営委員	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	割石 忠典 (WARIISHI Tadanori)	芸備近現代史研究会・会長	
研究協力者	駒井 忠之 (KOMAI Tadayuki)	水平社博物館・館長	
研究協力者	矢野 治世美 (YANO Chiyomi) (60805977)	熊本学園大学・社会福祉学部・准教授 (37402)	
研究協力者	川瀬 俊治 (KAWASE Shunji)	フリージャーナリスト	
研究協力者	八箇 亮仁 (HAKKA Akihito)	全国部落史研究会・会員	
研究協力者	友永 健三 (TOMONAGA Kenzo)	部落解放・人権研究所・名誉理事	
研究協力者	松本 信司 (MATSUMOTO Shinji)	部落解放同盟大阪府連合会・事務局長	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 第6回朝鮮衡平運動史研究会	開催年 2019年～2019年
-------------------------	--------------------

国際研究集会 第5回 朝鮮衡平運動史研究会	開催年 2018年～2018年
--------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------